

非加熱血液凝固因子製剤による HIV 感染血友病等患者の長期療養体制の構築に関する患者参加型研究

研究分担者

茂呂 寛 新潟大学医歯学総合病院 感染管理部 准教授

研究要旨

長期療養への対応を念頭に、新潟県内及び北関東甲信越における医療体制の見直しと、関連職員を対象とした教育・啓発の実践を図った。北関東甲信越ブロック内では薬害被害者数が限られることから、個別の事例の詳細な把握が重要な課題となっている。前年度までの新潟県内での取り組みをブロック内に拡張する形で、北関東甲信越 HIV 感染者包括支援連携の枠組みを設けることができた。今後はこの枠組みの活用により、より円滑な情報共有が期待でき、当院も積極な役割を果たす必要がある。

A. 研究目的

広い地域に患者が分散している新潟県及び北関東・甲信越地域において、地域特性を踏まえたうえでの長期療養体制の構築の実証研究を行う。

B. 研究方法

新潟県内の医療機関を対象に、HIV 感染症の基礎知識定着を図るため、研修会を開催し、HIV 感染症の受け入れや知識の定着についてアンケートを実施する。また、新潟県内での取り組みを北関東・甲信越地域に拡張する。

(倫理面への配慮)

アンケート調査の実施、臨床研究、講演会や検討会での症例提示にあたり、匿名化を徹底するなど、個人情報保護に十分な配慮を行った。

C. 研究結果

県内医療機関を対象とした研修会は、WEB での開催形式をとり、事前に希望のあった医療機関に対して、医師と看護師の講演を 1 セットとし、同内容のものを 2 回配信した。また、当施設が事務局を務める組織「新潟医療関連感染制御コンソーシアム (CHAIN)」を介し、HIV 感染症の講演会を複数回実施した。さらに北関東・甲信越地域において、新たな枠組みとして「北関東甲信越 HIV 感染者包括支援連携 (NK2-CHAIN)」を新たに設立した。

D. 考察

新潟県内における昨年度までの取り組みを継続するとともに、ここで得られた経験を元に、今年度は北関東・甲信越地域に活動の範囲を拡張することができた。この地域では薬害被害者数が限られていることから、情報共有・課題共有のための新たな枠組みとして、体制の整備を進めていく。

E. 結論

新潟県内、ブロック内に情報共有の枠組みを設定することができた。当院もブロック拠点病院として、従来より積極的に他県の事例に取り組んでいくこととした。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Dynamics of iron metabolism in patients with bloodstream infections: a time-course clinical study
Hiroshi Moro, Yuuki Bamba, Kei Nagano, Mariko Hakamata, Hideyuki Ogata, Satoshi, Shibata, Hiromi Cho, Nobumasa Aoki, Mizuho Sato, Yasuyoshi Ohshima, Satoshi Watanabe, Toshiyuki Koya, Toshinori Takada, Toshiaki

Kikuchi
Scientific Reports 13(1) 2023

2. 学会発表

1. 院内肺炎における empiric therapy の最適化について 茂呂寛 第97回日本感染症学会総会 2023年4月28日

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし